

## 1 研究主題

### 対話を通して学びを深める授業づくり ～ICT機器の効果的な活用～

## 2 主題設定について

「目標を実現する学びに向かう児童の育成」を主題に掲げ、学校努力点に取り組んできた。「ICTの活用」を手立てとした様々な実践を通して、児童の学びに対する興味・関心を高め、学習を効率的に行うことができた。また、図やグラフ、シンキングツール等は、思考を整理する上で大いに役立った。その他にも、ロイロノートを使い、考えの共有を行うことで、互いの考えを比較したり、関連付けたりすることはもちろん、自身の考えを見直し、最適解を追究する姿勢を育むことにもつながった。こういった成果がある一方で、次のような課題もある。

- タブレット操作やタイピング等、個々の能力差によって達成度が変わる
- 意見や成果物をクラス内で共有することはできているが、「深い学び」まで至っていない

このような課題を解決するために、以下のようなことに留意して授業づくりを進めていく。

- ICT機器を継続的に使用し、操作に慣れる
- 昨年度、成果のあった実践をブラッシュアップして行う
- 学びを深めるために、「ロイロノート」や「スカイメニュークラウド」を用いて思考を共有する
- 「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、授業作りをする。  
(キーワード：ゆるやかな協働性、子ども中心の学び、個別最適化)
- 話型を用いて、対話の質を高める

今年度は、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に授業をデザインする。今年度の努力点は「対話を通して学びを深める授業づくり」を主題とし、話型を用いながら対話の質を高め、児童の思考を整理・表現するために、ICT機器を活用しながら実践を進めていく。

## 3 研究の方法

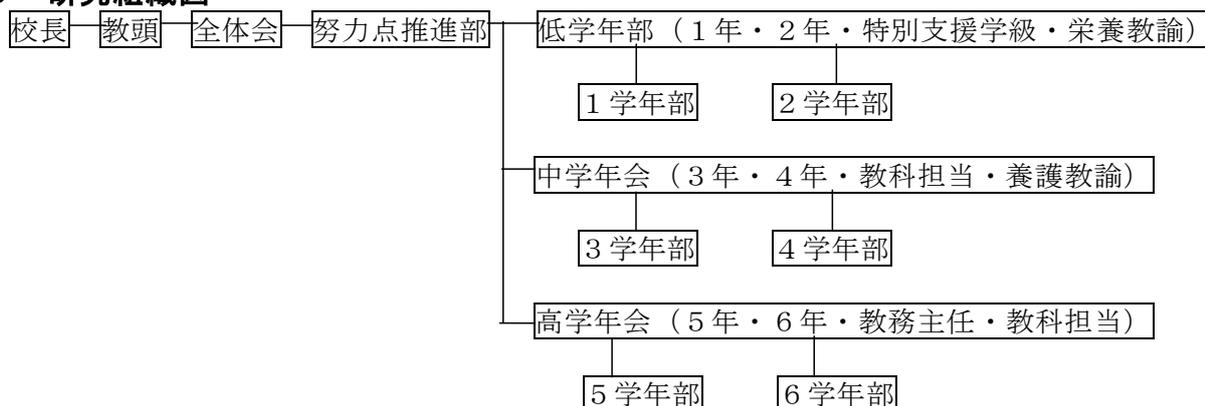
- (1) 各学年の実態に応じて、学年ごとに手立てを話し合う。  
※ 学年で、実践の振り返りや検証（一人1授業実践）を行う。各実践の事後検討会は学年で行う。実践を見て、気付いたことを伝えたり、参観後に事後検討会に参加したりする。
- (2) 学年内の授業実践は、必ず参観するようにする。また、異なる部会の実践も、できるだけ多く参観するようにする。
- (3) 中間報告会、最終報告会で、授業の工夫や活動の内容を、学年ごとに発表する。
- (4) 授業実践の際は、応接室に貼り出した年間計画を確認し、日程調整を正確にす

る。先生方の実践日ができるだけ同日にならないように調整する。

#### 4 年間計画

月	日	曜	内 容	
4	2	火	努力点推進委員会	本年度の方針・計画の検討
	9	火	努力点全体会	本年度の方針・計画決定
	11	木	学年部会	各学年の年間計画の検討 前期・後期の授業実践の検討
	19	金	各学年授業実践計画提出日	
	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
5	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
6	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
9	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
10	3	木	中間報告会	前期の成果・課題と後期計画の検討
11	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
1	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
2	6	木	最終報告会	年間の成果・課題
			学年部会	次年度に向けての方向の検討
	27	木	努力点推進委員会	次年度に向けての方針・計画の検討
3	3	月	努力点全体会	次年度に向けての方向・計画の確認

#### 5 研究組織図



#### 6 その他

- 授業実践にあたって、努力点デザインシートを作成する。
- 実践日の1週間前までに校長先生にお伺いをたてる。
- 実践日の前日までに「努力点デザインシート」を記入して提出する。
- 実践日の前日までに「努力点報告書」「努力点実践の当日の写真・動画」を記入して共有ノートに準備する。
- 授業中に参観者が「努力点報告書」に追記する
- 授業中に参観者が「努力点実践の当日の写真・動画」に追記する。
- 授業後に実践者が「努力点報告書」を完成させる。
- 授業後に「努力点デザインシート」「努力点報告書」「努力点実践の当日の写真・動画」を提出する。

※詳しくは別紙参照。